

豆田遺跡発掘調査報告書



調査区全景（北東から）

2017

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯

姫路市町坪字北ノ町58-4他において宅地造成工事が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である豆田遺跡(遺跡番号:020576)に位置する。豆田遺跡では平成13年度から英賀駅周辺土地区画整理事業に伴い継続的に発掘調査が行なわれている。周辺での調査成果から、遺構面に達すると考えられる掘削が行われる地下埋設管敷設箇所について発掘調査を行うこととなった。平成28(2016)年12月8日に事業主と姫路市が発掘調査委託契約を締結し、埋蔵文化財発掘調査を実施した。調査面積は、37.46㎡。調査期間は平成28(2016)年12月20日から12月26日である。調査終了後は出土品等の整理作業を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。

2. 調査の位置と周辺の歴史的環境

調査地は、夢前川下流左岸の苦福山以北に連なる荒川山塊東側に夢前川の旧流路によって形成された沖積地に位置する。豆田遺跡は、南北約600m、東西約300mを範囲とする。遺跡の周辺は、『播磨国風土記』によれば「伊和里」と呼ばれる地であり、遺跡周辺では条里地割が現在でも残っている。平安時代につくられた『和名類聚抄』にも「伊和郷」の記載がある。室町時代には、遺跡周辺一帯は「伊和西」と呼ばれ、国衙別納(天皇家に所属していた土地)の地であった。また、調査地の南側に位置する町坪一帯は、『播磨鑑』に記載された「町ノ坪構居」に比定され、豊臣秀吉の英賀城攻略の際に落城したと記されている。調査地周辺の既往の調査でも、掘立柱建物や溝など中世に属する遺構が確認されている。

3. 調査の成果

調査地の現況は休耕田であり、現地表面の高さは周辺の道路よりも低く標高約6.7mを測る。基本層序は、第1層は耕土(10YR3/1黒褐色細砂)で層厚約25~30cmを測る。第2層は、床土(2.5Y4/2暗灰黄色細砂混じりシルト)で層厚約5cmを測る。第3層が地山(2.5Y2/1黒色細砂混じりシルト)である。遺構検出面の標高は、約6.4mである。第3層上面において土坑(SK)を2基、平面が不定形な土坑(SX)を3基、ピット(SP)を3基確認した。

SK01は、調査区北側で検出した南北幅約11m、深さ10cmを測る土坑である。東西幅は、遺構が調査区外に及んでおり確認できなかった。遺構から土師器・須恵器片とともに瓦質羽釜(図3-1)が出土している。残存高3.95cm、厚さ約0.6cm、復元径25.8cmを測る。内面はナゲ調整、外面の羽部分より下にはススが付着していた。器形の特徴から14世紀後半に収まる。SK02は、調査区中央に位置し、南北幅約6m、深さ約5cmを測る。SK01と同じく東西幅は確認することができなかった。遺構から土師器・須恵器片とともに土師質の羽釜(図3-2)が出土している。残存高4.95cm、厚さ約0.4cmを測る。口縁はやや内湾し、全体的に薄手である。内外面ともに器壁の剥離が激しく、調整は不明である。15世紀前半頃のものと考えられる。SX01~03は、深さ5cm前後と非常に浅く平面が不定形な遺構である。遺構が調査区外に広がるため、全容は不明である。

今回の調査で確認された遺構は、出土した土器の時期から室町時代に該当するものと考えられる。調査区の形状から遺構の全容を確認するには至らなかったが、豆田遺跡の様相を考える上で貴重な成果である。

【引用・参考文献】

長谷川 真 2006 『瀬戸内東部一帯』、『第25回 中世土器研究会 土器表装具の諸様相』日本中世土器研究会
姫路市埋蔵文化財センター編 2015 『TSUBOHEI2015-姫路市埋蔵文化財情報』姫路市教育委員会

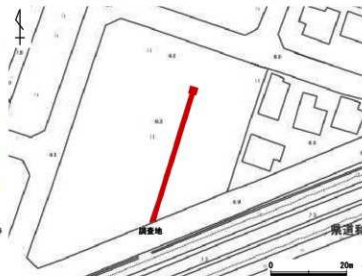
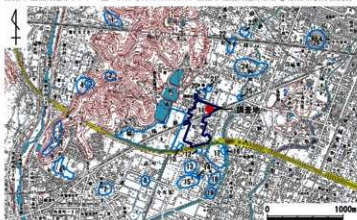


図1 周辺の遺跡と調査位置図 (S=1:5,000、S=1:1,000)

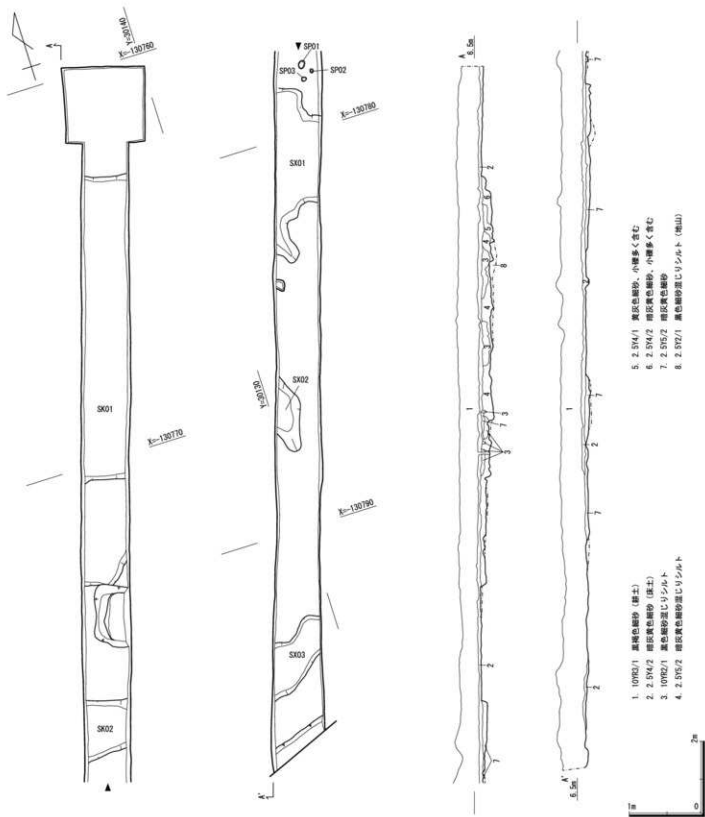


図2 調査区平・断面図 (S=1:100 · 1:50)



図3 出土遺物 (S=1:4)

例言

1. 本書は、姫路市内西に所在する豆田遺跡（国史跡番号20050）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、姫路市西中北ノ町18-4他における宅地造成工事に伴い、事業主と委託契約を締結し、姫路市教育委員会が実施した。現地で発掘調査は、姫路市埋蔵文化財センター 関 梓が担当した。
3. 発掘調査と報告書作成の費用は、事業主の負担による。
4. 発掘調査は、平成28年12月20日から同年12月26日にかけて実施した。調査面積は3,460㎡である。
5. 本書の編集・執筆および図版の写真を撮影は関梓が行った。
6. 本報告によりわかる調査の記録、出土遺物などは、すべて姫路市埋蔵文化財センターで保管している。

凡例

1. 発掘調査で行った測量は、世界測地系（国土地理院2000）に準拠する平均海面角経緯高系を基準とし、数値1cm単位で表示している。
2. 本書で用いている標高は、東京湾平均海面（L.P.）を基準とし、使用する方位は世界測地系の南緯北である。
3. 本書に掲載した地図等は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（姫路北部）および姫路市基本地図等図を使用した。
4. 土層の色調については、小山正志・竹原秀徳編『新図 標準土色図 本邦』日本色研事業株式会社にて準拠した。



写真1 調査区西壁土層断面（南東より）



写真2 SK01土層断面（東より）

報告書抄録

ふりがな	まめだいせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	豆田遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第55集							
編著者名	関 梓							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市西郷町坂元 414番地1				TEL (079) 252-3950			
発行年月日	平成29年（2017年）3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
豆田遺跡	ひょうごけんめいじちようのつば 兵庫県姫路市町坪 あざきたのちよさ 字北ノ町58-4他	28201	020576	34° 49' 15"	134° 39' 46"	2016.12.20 ～ 2016.12.26	37㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			遺跡調査番号	
豆田遺跡	集落跡	室町時代	土坑・ピット	須石器、土師器、瓦質土器			20160435	

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第55集

豆田遺跡発掘調査報告書

編 集 姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246 兵庫県姫路市西郷町坂元 414番地1

発 行 姫路市教育委員会
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

発 行 日 平成29年（2017年）3月31日

印刷・製本 松尾印刷株式会社
〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494